

# 学校だより

## 人間形成の基礎を培う ～幼稚園教育で思うこと(1)～

11月22日(土)、とても肌寒い朝を迎えました。いつものように、校舎入り口で子どもたちを迎え、教室を一回りして子どもたちの様子を見た後、幼稚園部の親子遠足に顔を出しました。

私が10時半頃に Bear Creek Park に到着した時には、園児は、実りの秋を象徴するかのような多くのドングリを拾い、保護者や教員に見守られながら、遊具を使って元気に遊んでいました。

その後、クラス毎の記念写真を取り終わり、子どもたちは、再び遊具で遊び出しました。ロープでできたジャングルジムの上まで登っていく子どもを見ながら心配そうにつぶやく保護者がいました。また、いてもたってもいられない保護者は声をかけていました。



私が保護者であれば、いてもたってもいられない一人で、周りを気にしながら声をかけていたと思われそうです。

日本のジャングルジムは真砂土か砂場に設置されていることが多く、砂場の場合は、飛び降りたときの衝撃も和らぎます。Bear Creek Park のそれは、ウッドチップが敷き詰められているために弾力性に富み、日本より安全性が高いものになっていました。

何人かの子どもは、写真の高さまで簡単に登り、下から登ってきている友だちを避けながら素早く降りて来ていました。頂上まで行った園児は、何を思いながら親に手を振り、お父さんやお母さんとどのような言葉のキャッチボールを心の中で行っていたのでしょうか。

遊びを通して状況に応じて機敏に自分の体を動かすことができるようにするとともに、危険な場所や事物などがわかり、安全について理解を深めていく基礎を培っていました。自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う大切な学習であることがわかります。

## ヒューストン日本語補習校

Japanese Educational Institute of Houston

12651 Briar Forest Drive, Suite 105, Houston, Texas 77077

Tel. 281-531-6743 / Fax. 281-531-6795 (事務局 火~金曜日)

Tel. / Fax. 713-973-0659 (職員室 土曜日のみ)

E-mail: jlssh@jeihouston.org Home Page: www.jeihouston.org

## 平成20年度海外子女文芸作品コンクール

「作文の部」で優秀賞を受賞した作品を紹介します。ヒューストン日本語補習校から、このコンクールの「作文の部」での入賞は久しぶりだと聞き、とても喜んでいました。入賞おめでとうございます。

罰則の効果

中学部2年 堀 雄希

「あれっ、今日はホセはお休みかい。」  
僕はいつもなら友人のホセが座っているはずの席に目を向けながら、別の友だちに聞いてみた。すると、彼は、「ああ、あいつなら他のクラスメイトとけんかして、今週はISS行きだよ。」と、あきれたような声で答えた。ISSとは「イン スクール サスペンション」の略で、生徒に対する罰則の一つである。悪さをして、ISSの罰を下された生徒は、ISS用の特別なクラスで一日を過ごさねばならず、友達と会話することも許されず、ただ出されたプリントを黙々とやらねばいけないのである。自由の国アメリカということで、アメリカの学校に対して自由なイメージを抱いている人は多いのではないだろうか。アメリカでは学校の規則も日本ほど厳しくないと思う人も多いかもしいない。実際、僕も最初はそう思っていた。しかし、そうとは限らない。なぜなら、アメリカの学校、少なくとも僕が通っている学校では、規則を破る生徒にはそれに値する厳しい処罰が下されるからだ。

違反にも様々なレベルがあるように、ディテンション、つまり処罰にも様々なレベルがある。例えば、授業に少し遅刻した程度なら、ランチのときに指定された場所で一人で昼ご飯を食べる「ランチ ディテンション」だけで済む。友達と一緒に食事を取れないので少々惨めだが、成績には全く関係無いほか、ランチタイムは、実際25分なので、ゆっくり食事を取ればあっという間に終わることから僕の学校では一番軽い罰則として知られている。しかし、事がもう少し深刻になると、放課後、学校に居残り、勉強や先生の手伝いをしなければいけない「アフター スクール ディテンション」(ASD)になる。これは、放課後に習い事がある生徒にとっては厳しい処罰になるに違いない。その他、土曜日に学校で反省文を書かなければいけない「サタデー ディテンション」(SD)、冒頭で述べたISSは更にその上に行くものである。生徒がざわついているとき、先生は「これ以上うるさくすると、

今週の土曜日学校で過ごすこととなりますよ。」の一言で、教室を一瞬のうちに静かにさせることも可能なのである。また、先生の中には警告なしにいきなり ISS を生徒に与える先生もおり、それがきっかけとなって、少し前まで授業中に騒いでいた生徒に急にけじめがつくようになることもたまにある。さらに、罰則をあまりにも頻繁に与えられた生徒は、最悪の時、留年することにもなりかねない。かといって、違反さえしなければ留年の心配はないのだろうか。残念ながらそうではない。たとえ生まれてから一度も遅刻したことのない生徒でも、4年生、6年生、8年生のような偶数の学年で、学年末に行われる試験に落ちると留年することになる。5年生、7年生、9年生のような奇数の学年でもあまりにも授業態度や成績が悪かったりすると留年させられる。僕の住んでいるテキサス州には、「ノーパスノープレイ」という法律がある。これは、生徒の成績が70パーセント以下になるとアメリカンフットボールやオーケストラといったクラブ活動が禁止される法律である。だから、いくら演奏やスポーツ好きの生徒でも、勉強をおろそかにしていると結果的に自分の好きな分野での活動が制限されるため、意外としっかり勉強しているのだ。このような罰則のおかげで、アメリカの学校では大半の生徒は自主的に勉強する。

罰が厳しい一方で、行いが良い生徒には褒賞がある。例えば、僕の学校では、学期中、常に成績が90パーセント以上をマークした生徒には、ドーナツを食べるパーティーがあった。1時間目の授業を休める上、ただでドーナツを食べられるのだから、1回ドーナツパーティーに参加したことがある生徒は、以前よりやる気になる。更に学年末の試験で落ちると留年するのと対照的に、もし試験で高得点を修めると飛び級することもある。そして、年度の最後には、成績の良い生徒の家庭だけに授賞式の招待状が届く。この授賞式では、それぞれの学校外の地域活動で活躍した人たちも表彰されるのだ。つまり、悪い行いをすれば必ず罰則がついてくるように、良い行いをしたり頑張ったりした人にはそれ相応の褒賞が与えられるのがアメリカの学校なのだ。

僕が思うには、アメリカで過ちを犯したら必ず罰が科せられ、努力したら必ず報われることを常に意識させることで生徒に社会的なルールを教え、より高い目標を目指すようにさせているような気がする。人種の垣塙と言われるだけあり、様々な人種が集まり、まとめるのが他の国と比べて難しいこの国だからこそ、こういった厳しいルールが必要なかもしれない。また、義務教育の中でもよくある留年も、視点を変えれば勉強についていけなくなる生徒のことを考慮してやってあげているようにも受け取れる。この様にやる気のある生徒の能力をできるだけ伸ばすよう、個人個人に適

した勉強法を使っているのがアメリカの学校教育だと僕は思う。

よくわかる堀君の文章でした。罰則と褒賞という制度もわかりました。日本の学校と比較しながら読んだ人が多かったことでしょう。私もその一人です。

日本国内では、時々、対教師暴力や校舎の器物損壊などで中学生高校生が補導、逮捕されるということでも悲しい報道を耳にすることがあります。関係機関の力を借りなければ、親や教師だけで子育てができない事態に憂慮します。中学校は校則があるものの、退学がある高校に比べると問題行動をとる生徒の対応には時間と労力を要します。高等学校も時間をかけながら学校や社会のルールを教えています。最近、入試で「服装で不合格」にした学校や喫煙室を設けていた学校がニュースで取り上げられました。私自身、深く関わってきた分野であるだけに、当事者のことを考えると改めて生徒指導の難しさを痛感します。

### 第3回 漢字検定のお知らせ

学年相当の漢字が身についているかどうかを知る一つとして、検定受検はいい機会になります。漢字学習が進んでいる人は、ぜひ年度内に挑戦してください。補習校の指導は、漢字の読み書きの基本までです。応用が漢字検定と思ってください。挑戦することで学習する機会を増やすこととなります。合格することで成功体験を味わい、次の級への励みになります。漢字がわかると本が読めます。プラスになることばかりですね。来週13日が締め切りです。

#### ◆パトロール当番予定表 12月13日

学年	順位	児童生徒氏名		
★AM1	リーダー	小4	2	川瀬 直輝
	2	3	ネブギン 健太	
	3	4	本多 怜	
	4	5	松浦 祐一郎	
	5	6	松木 峻	
	6	7	若田 晶雄	
	7	8	酒井 将之	
★PM1	リーダー	9	上原 仁	
	2	10	高橋 日向華	
	3	11	ワブライエン 恵里花	
	4	12	西田 遼介	
	5	13	正岡 佑規	
	6	14	武井 拓博	
	7	15	杉本 雅隆	



#### <転入>

法正 元くん (小2A) 渡邊啓太郎君 (小5A)  
伊藤留奈さん (小5B) 渡邊優理さん (中1)  
伊藤那紗さん (中1)

ようこそ、補習校へ。いっしょに勉強していきましょう。みなさん、よろしくお願ひします。